

Annual Report

2025



特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会
2025年度 年次報告書

Annual Report 2025 Index

代表挨拶	2
2025年度事業ハイライト	3
国際協力	5
環境保護	6
インタビュー 西菱電機株式会社	9
地域活性化	11
インタビュー 加藤 弘 関川村村長	14
子どもの教育支援	15
インタビュー 伊東 亜佐子 理事	16
災害救援	17
その他の事業	18
協賛企業一覧	19
メディア掲載一覧	19
収支報告	21
団体概要(33期学生組織)	22

代表挨拶

本協会も発足から今年で34年目を迎えました。昨年の学生会員数は80大学2,767人となり、定期的な取り組みを含めた活動件数は1,198件に上り、延べ11,575人の学生が活動に参加しました。

このうち、本部主催活動は90件(実施回数は延べ256回)で、延べ5,152人が参加しました。また、全国にあるクラブが主催した地域事業回数は942回、延べ6,423人が参加いたしました。

昨年だけで、1万人を超える学生が様々な地域でボランティア活動を展開しました。

本協会のクラブは、東日本エリア13か所、(東京10、神奈川1、山形1、群馬1)、西日本エリア13か所(京都6、大阪3、兵庫1、滋賀2、長崎1)の26か所に拠点を置いています。それぞれが自主的に運営され、地域に根差した活動を定期的に展開しています。

本協会では発足当時から、現地で有意義な活動を行うための準備として、研修や勉強会等を実施してきました。

そして、異なる大学の学生たちがチームを組み、共通の目標を掲げ、チームビルディングを意識したチーム作りを行ってきました。

しかしながら昨今、コロナ禍の影響もあり、学生の人間関係の希薄化やコミュニティの縮小が進んでいると指摘されています。本協会もこの現実を重く受け止め、これまで以上に多様なコミュニティを用意し、学生同士が交流する機会を拡充しています。

チームで活動するというのは、課題を一人で抱え込むのではなく、先輩を頼り、後輩の

育成を見据えながら適切に役割を分担するという関係性を築くことに他なりません。

これらを研修と実践で身に付け、社会へと羽ばたいてほしいと願っております。

現状、予測困難な未来に対して、単に安心・安全だけを求める思考自体が、現代におけるリスクとなっていると感じています。まずは起こりうるリスクを予測し、回避できないリスクが存在することを認識した上で、その影響を最小限に抑える(軽減する)備えをしておく必要があると考えています。

本協会はこの課題を踏まえ、これまで以上に社会課題の解決に向けて活動を拡充し、さらに若者の「社会人基礎力」の向上を促進して参りたいと考えております。

皆様の一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
国際ボランティア学生協会

代表理事 下村 誠



■ 牧之原市竜巻災害が繋いだ縁

2025年9月5日に台風15号に伴う竜巻が発生。静岡県牧之原市を中心に住家だけでなく、ビニールハウスなどの農業被害も甚大であった。9月16日から11月16日まで、延べ24日間397名で災害救援活動を実施しました。その活動先の一つである約8割のイチゴハウスが倒壊した「おかげさます杉山農園」での継続支援活動では、学生と園主杉山さん、そのご家族との交流も生まれました。

また、IVUSA12期の卒業生の姉が経営する洋菓子の店かしこさんから、杉山農園のイチゴを使ったお菓子を販売したいと申し出がありました。これまでもIVUSAの活動支援金の募金箱を店内に設置してくれるなど支援をいただいております。クリスマスシーズンのシュトーレンやバレンタインシーズンのケーキショコラなど素敵なスイーツを開発いただきました。

3月には、倒壊を免れた2割のハウスでのイチゴの収穫がすることができ、牧之原市の高校生とのワークショップ時にご挨拶に行った学生たちにいちご狩りのプレゼントも頂きました。災害救援活動が繋いだ縁で、今後も牧之原市での地域活動ができないか、地元の行政も交えて計画をしています。



■ コロナで中断していたフィリピンでの活動が再開!

パンデミックにより中断していたフィリピンでの活動ですが(2023年の夏にスタディツアーは実施)、2025年度に本格的に再開。2026年3月に実施された活動には、30名の学生が参加しました。もともと2013年に起きた巨大台風「ヨランダ」による被害の復旧支援という形で始まった活動ですが、その後環境保全と子どもたちに対する減災教育を軸に実施してきました。

今回はマニラのデ・ラ・サール大学の学生とのワークショップやマニラ湾清掃、そしてヌエバエシハ州ラオー市での小学生との文化交流を行いました。ワークショップはフィリピンの大学生と一緒に企画を考え、学生主導で運営。お互いの活動を紹介するとともに、今後一緒にフィリピンでどのような活動をしていくか積極的な意見交換がなされました。

ラオー市には2泊3日で伺ったのですが、地元のユースが帯同してくれ、ホームステイもあったため、じっくりとフィリピンの方々と交流することができ、学生たちはすっかり「フィリピン推し」になりました。

今後は、デ・ラ・サール大学の学生で作るボランティア団体COSCA-LOVEと協定を結び、継続的な事業を実施していく予定です。



児童養護施設の子どもたちとの交流キャンプ (通称:子ども隊)を6年ぶりに実施!

コロナ禍の影響で2019年度を最後に実施できていませんでしたが、多くの関係者の協力のもと、再び子どもたちとの交流の場をつくることができました。

子ども隊は、子どもたちが「未来への糧となるもの」を見つけられることを目指した活動です。子どもたちと年齢の近い大学生がお兄さん・お姉さんのような存在として関わりながら、体を動かす遊びや調理体験、ものづくりなどを行います。

また、「できた!」という達成感を味わえるゲームや、自分の手で作品を作り上げる企画、相手のことを考えてプレゼントを作る企画などを通して、自分自身や周囲の人とのつながりを感じられる機会をつくっています。

活動の中で積み重ねた成功体験は、子どもたちが自分に自信を持つきっかけとなります。また、そこで作った作品や仲間との思い出が、困ったときや悩んだときに前向きな気持ちを思い出させてくれる「心の拠り所」となり、未来を歩む力につながっています。



活動地域の企業との連携が進む!

琵琶湖での特定外来生物オオバナミズキンバイの除去活動で、お弁当の協賛をいただきました。協賛いただいたのは、滋賀県長浜市に工場のある日軽パネルシステム株式会社様からです。琵琶湖での清掃活動に何度かご参加いただいたことがご縁となり、法人会員にもなっていていただいております。

一度、社員の方を対象にしたオオバナミズキンバイに関する勉強会を開催させていただき、私たちの活動に対して非常に強い関心を持っていただいております。活動では作業を終えた学生たちに対して、企業紹介をしていただいた後に、お弁当を配布していただき、学生たちと一緒に昼食をとりました。

その後、現場にも実際に足を運んでいただき、学生たちの作業の様子を見ながら、オオバナミズキンバイの特徴や作業手順などをご説明させていただきました。

また、2019年から西菱電機株式会社様より、LTE対応のハンディ型業務用IP無線機「SoftBank 801KW」(JVCケンウッド製) 20台を無償貸与いただいております。この無線機は、当協会の屋外での様々な活動で使用させていただいております。

無線機の提供以外にも社員の方には毎年、活動にご参加いただいております。今年度は環状線一周清掃に4名がご参加くださいました。



カンボジア 子ども教育支援活動

日時 3月4日～11日 **場所** カンボジア王国クラチエ州 **参加人数** 23名
活動内容 キロ62小学校の建設活動(教室、廊下のタイル貼り)、交流企画、施設見学
カウンターパート・協力 KHJ Construction Co.,Ltd

成果・課題(担当職員から一言)

キロ62小学校の建設着工から3年目となり、昨年の壁の左官に続き床ができたこととによって、子どもたちが、校舎を安全に使用できる状態にできました。ただ、残り3分の1の資金が足りず、最後のペンキ塗りや周辺花壇などの整備が行えず、この年も開校式を行うことはできませんでした。(高井)



フィリピン環境保全活動

日時 3月1日～8日
場所 フィリピン・マニラ、ヌエバエシハ州ラオー市
参加人数 32名
活動内容 デ・ラ・サール大学の学生とのワークショップ、マニラ湾に面するラス・ピニャス＝パラニャーケ湿地公園で海岸清掃、ラオー市のピナグバヤナン小学校での文化交流・記念植樹
カウンターパート・協力

デ・ラ・サール大学、ラオー市の農業協同組合KADRE

成果・課題(担当職員から一言)

久々の活動だったこともあり、現地との関係性のチューニングがメインでした。学生たちがフィリピンの方々と仲良くなれたのが最大の成果です。(伊藤)



青山国際教育学院の 留学生との交流会

日時 8月26日
場所 東京都港区、青山国際教育学院の教室
参加人数 IVUSA25名と青山国際教育学院の留学生40名
活動内容 ゲーム、フリートーク
カウンターパート・協力 青山国際教育学院
成果・課題(担当職員から一言)

半日という短いプログラムですが、それに向けて学生たちも入念な準備をしており、参加した学生も留学生の満足度も非常に高かったです。(伊藤)



1 清掃活動

IVUSAでは、「Youth for the Blue」をコンセプトに、大学生と活動地域の若者が一緒に海洋ごみ問題解決に取り組むキャンペーンを、公益財団法人日本財団の「海と日本PROJECT」の助成を受けて全国各地で実施しています。



千葉県九十九里浜全域清掃大作戦

日時 9月1日～5日

場所 千葉県九十九里浜海岸 **参加人数** 144名

活動内容

九十九里浜海岸全域66kmの清掃活動。現場研修等訓練プログラム

カウンターパート・協力

千葉県、旭市、いすみ市、一宮町、大網白里市、九十九里町、山武市、白子町、匝瑳市、長生村、横芝光町

成果・課題(担当職員から一言)

全域の清掃活動が完遂できました。1年生を中心に活動時に必要な道具の使い方などの習熟の場となりました。(宮崎)



山形県日本海沿岸清掃活動

日時 6月21日～22日、8月26日～30日、11月8日～9日、3月13日～16日

場所 山形県酒田市、遊佐町、鶴岡市

参加人数 198人

活動内容

海岸清掃、地元住民との交流会、海ごみについての勉強会

カウンターパート・協力

NPO法人パートナーシップオフィス、山形県庄内総合支庁環境課、美しやまがたの海プラットフォーム、ゆらまちっく戦略会議

成果・課題(担当職員から一言)

可燃ごみ:613袋、不燃ごみ:22袋、漁網・魚網:230袋、フレコンバッグ:15.5袋、粗大ごみ:715袋分を回収。(箭野)



長崎県対馬市海岸清掃活動

日時 8月30日～9月2日、2月14日～17日、3月18日

場所 長崎県対馬市 **参加人数** 165名

活動内容

海岸清掃、海洋ごみに関するワークショップ、各種アクティビティ

カウンターパート・協力

長崎県、対馬市、一般社団法人対馬CAPPA

成果・課題(担当職員から一言)

大阪・関西万博の「対馬Week」の中で発表させていただいたり、対馬市内の漁業協同組合やエコツアー実施団体との連携が進んだり、認知度はかなり高まってきました。(伊藤)



ラブリー山中湖環境保全活動

日時 6月7日、8月1日～2日

場所 山梨県山中湖村 **参加人数** 62名

活動内容

湖岸清掃、クロスカフェ(地域の方との交流会)、山中湖村環境デーの運営サポート

カウンターパート・協力

山中湖村、ラブリー山中湖有志の会

成果・課題(担当職員から一言)

一泊二日で都心からも近いので参加しやすい活動なのですが、地域課題の解決に向けた長期的・継続的な事業構築が課題です。(伊藤)



新潟県佐渡市海岸清掃活動

日時 9月11日～14日 **場所** 新潟県佐渡市

参加人数 62名

活動内容

海岸清掃、地域の方との交流会、エクスカッション

カウンターパート・協力

佐渡市、佐渡市海府地区

成果・課題(担当職員から一言)

環境保護と地域活性化の二つの要素を取り入れた活動を目指しています。新潟県内の学生や若者の巻き込みに今後は力を入れていきます。(伊藤)



北海道別海町ネイチャーツアー

日時 9月5日～8日 場所 北海道別海町

参加人数 9名 活動内容 野付半島の清掃活動・散策、酪農体験、漁師体験

カウンターパート・協力

別海町、のつけ半島ネイチャー
クラブ、尾岱沼RINC、別海町地
域おこし協力隊、中標津町地
域おこし協力隊、坂野下ファ
ーム、有限会社酪農研修牧場

成果・課題(担当職員から一言)

初めての北海道での活動。北
海道の雄大な自然を体験でき
るのが何よりの魅力!!IVUSAの
OBが別海町で地域おこし協力
隊として活動しているご縁から
始まりました。(伊藤)



沖縄県石垣島海洋漂着ゴミ 水際掃討大作戦

日時 2月26日～3月3日 場所 沖縄県石垣市

参加人数 66名

活動内容

海岸清掃、アップサイクル体験
(ワークショップ)、石垣島民と
の懇親会、観光

カウンターパート・協力

合同会社 縄文企画

成果・課題(担当職員から一言)

45Lゴミ袋937袋、粗大ゴミ
49個回収。(澤島)



東京山手線一周清掃活動

日時 3月19日 場所 東京都山手線沿線

活動内容 清掃

参加人数 173名

成果・課題(担当職員から一言)

5つのグループに分かれ一周約
45km清掃を成し遂げました!
(澤島)



琵琶湖湖岸清掃活動

日時 9月4日～5日、11月15日、3月12日～14日

場所 滋賀県長浜市・近江八幡市

参加人数 172名

成果・課題(担当職員から一言)

活動内容

琵琶湖の湖岸に漂着したごみ
の清掃

カウンターパート・協力

湖東湖北ゆうゆうパートナーズ

9月は可燃:270kg、不燃:
30kg、合計:300kg、3月は可燃
679袋・不燃174袋、合計853袋
のごみを回収しました。しかし、ご
みを回収するだけの活動となっ
てしまっており、啓発要素が全くな
いことが課題です。(金子)



大阪環状線一周清掃活動

日時 3月23日 場所 大阪府大阪市内大阪環状線内

参加人数 266名

活動内容 清掃

カウンターパート・協力

大阪市中部環境事業センター、大
阪市、大阪城公園パークセンター

成果・課題(担当職員から一言)

45リットル袋、111袋を回
収しました。(谷口)



② 生態系保全

生物多様性の脅威となる外来水生植物の除去活動や、カキ殻の回収、放置竹林の整備などを実施しています。

琵琶湖外来水生植物除去活動

日時 5月24日、5月25日、6月22日、8月12日、9月12日～14日、10月19日、11月29日、12月6日

場所 滋賀県高島市、守山市、大津市、東近江市、京都府京都市

参加人数 493名

活動内容 オオバナミズキンバイ除去活動

カウンターパート・協力

瀬田町漁業協同組合、国土交通省、一般社団法人セブンイレブン記念財団、滋賀県庁、独立行政法人水資源機構、株式会社アズマ、陸上自衛隊今津駐屯地、日軽パネルシステム株式会社、西菱電機株式会社、希望食品株式会社、東和製菓株式会社、ランドアート株式会社、イカリ消毒株式会社、びわ湖チャリティー100km歩行大会、一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会、NPO法人びわこ豊穡の郷、京都府、鴨川を美しくする会、一般社団法人鴨川流域ネットワーク

成果・課題(担当職員から一言)

5,000㎡以上の除去ができました。コロナ禍以降最大の規模(関係者含めて300人)の活動ができました。(谷口)



千葉県印旛沼クリーン大作戦

日時 8月19日～21日

場所 千葉県佐倉市 **参加人数** 54名

活動内容 特定水生外来植物ナガエツルノゲイトウの除去

カウンターパート・協力

佐倉市、印旛沼土地改良区、特定非営利活動法人印旛沼広域環境研究会、水資源機構千葉用水総合管理所

成果・課題(担当職員から一言)

駆除面積約500平米、駆除体積約500立米、駆除重量約13トン。地域の方々へナガエツルノゲイトウの問題に目を向けてもらい、地域の方々と一緒に取り組んでいく形を目指していきます。(山崎)



京都府阿蘇海環境づくり活動

日時 4月26日～27日、8月29日～9月1日、10月11日～12日、11月22日～23日、3月13日～16日

場所 京都府宮津市、与謝野町 **参加人数** 174名

活動内容 カキ殻回収イベント、生き物調査、小学生向け環境学習会、海岸・河川清掃、交流会など

カウンターパート・協力

阿蘇海環境づくり協働会議、京都府、宮津市、与謝野町、吉野茶屋、宮津市文珠地区、智恩寺、NPO法人Sports Club RAINBOW

成果・課題(担当職員から一言)

美しく豊かな阿蘇海を目指し、カキ殻回収以外の取り組みにも力を入れていきます。また、地元の小学生～高校生を巻き込んだ活動を目指していきます。(深山)



千葉県佐倉里山自然公園整備活動

日時 2月17日～19日

場所 千葉県佐倉市

参加人数 63名

活動内容 里山自然公園の遊歩道整備・竹製遊具制作

カウンターパート・協力

佐倉市、森のようちえんさくらんぼ、佐倉里山公園支援し隊

成果・課題(担当職員から一言)

里山自然公園を舞台に、地域の方々のためのイベントや活動を、地域の方々と一緒に取り組んでいきます。(山崎)



こどもの国竹林整備活動

日時 9月28日、11月16日、1月25日、2月15日

場所 神奈川県こどもの国 **参加人数** 17名

活動内容 園内の竹原整備活動

カウンターパート・協力

成果・課題(担当職員から一言) 園内の整備が必要な竹原、竹林の整備活動を行うことで、施設利用者の安全確保に寄与しました。(箭野)



長野県伊那谷環境保全活動

日時 5月1日～4日、9月5日～8日、11月15日～16日、3月6日～9日

場所 長野県飯田市

参加人数 135名

活動内容 竹林整備、メンマ作り、交流会など

カウンターパート・協力

飯田市、NPO法人いのだに竹Links

成果・課題(担当職員から一言)

環境保護活動をはじめとする地域の課題解決の担い手確保を目指し、地元の高校生や中部地方の学生の参加者の増加を目指していきます。(深山)



パートナーの企業の方にインタビューさせていただきました。

IVUSAが行っている琵琶湖での外来水生植物・オオバナミズキンバイ除去活動に参加していただくとともに、IP無線機の貸与などでご支援していただいている西菱電機株式会社の方にインタビューさせていただきました。



西菱電機株式会社

情報通信システム、情報通信端末、防災・減災システムなど、幅広い分野で社会インフラを支える企業です。

<https://www.seiryodenki.co.jp/>



お話を伺った方

津川 智昭さん……国土交通省のインフラ・情報通信設備分野の営業を担当

南川 智揮さん……防災無線をはじめとする情報通信インフラシステムの、トータルな施工管理を担当

灰谷 まこさん……採用担当(新入社員の採用・研修)入社5年目。IVUSAのOG(学生時代は新潟県長岡市や静岡県西伊豆町の地域活性化活動や沖縄県での遺骨収集の活動を中心に参加)

Q.まず会社の紹介をお願いします

主にシステムソリューション・モバイルソリューションの2つの事業を展開しています。国や自治体向けには防災無線や河川の監視カメラをはじめとする社会インフラシステムを、民間企業向けにはカメラ、無線通信、映像などを活用したシステムを提供しています。モバイルソリューションでは携帯ショップ運営のほか、携帯端末の修理事業も行っています。携帯端末の修理に関しては高い技術を有しており、全世界の端末修理業界のベンチマークになっています。



社会貢献活動としては、最近では産学連携として大学での寄付講座を行っています。その他にはIVUSAの活動参加や中学生の職業体験学習の受け入れ、能登半島の地震の際も、通信ネットワークの支援、地元への寄付などをしました。防災や災害の備えは事業としても深く関わっていますので、本業に軸足を置いた社会貢献活動と言えます。大阪・関西万博では、立命館大学と協力して防災教育に携わりながら未来の防災体験として動画展示を出しました。

Q.IVUSAとかかわり始められたきっかけを教えてください

最初の一步はIVUSAの卒業生が当社に入社したことです。私たちが災害対応の事業をしているということもあり、防災や災害救援を行っているIVUSAの認知が広がり、その流れで当社製のIP無線機を活動用として無償貸与することになりました。

当社にとって、社会貢献というのは「本業のプラスアルファ」というよりは、「本業そのもの」という認識です。こうした姿勢が、結果として官公庁からの評価にも繋がっていると思います。

Q.IVUSAの活動に参加されてみてどうでしたか？

参加する前から大変そうだと思っていましたが、実際にやってみると、思っていた以上に大変でした。オオバナミズキンバイを抜くときは、中腰になって力を入れないといけないので、開始早々に体力の限界を感じるほどハードな工程です。参加したの

が9月でまだ残暑が厳しい時期でしたが、学生の元気とパワーを見てなんとかやり切ることができ、とても達成感がありました。

作業が大変な分、参加した社員同士の絆が強くなったと思います。

Q.何か職場に変化はありましたか？

活動へ参加することをきっかけに社内の横のコミュニケーションが普段にも増して活発になったと思います。今回参加したオオバナミズキンバイの除去活動がニュースで取り上げられたこともあり、社内では「ニュースを見た!」という話題で持ちきりでした。

毎年、数人ずつの参加ではありますが、年々IVUSAの名前が社内では有名になっていると感じています。

Q.これからの展望やIVUSAに対する期待を教えてください

日本、海外に展開されているIVUSAの活動にもっと参加していきたいと思っています。現在はIP無線機の貸し出しにとどまっていますが、より価値を高められるような関わり方を考えていきたいです。防災や災害対応を事業として担う会社でもあるので、実際の現場で災害救援活動をされているIVUSAの皆さんとは協力できる可能性がまだまだあると思います。IVUSA学生の熱意に負けないよう、当社もより良い未来をつくるべく、社会に貢献していきたいです。



地域活性化

三重県熊野市活性化活動

日時 8月14日～19日、12月20日～22日、3月16日～18日

場所 三重県熊野市 **参加人数** 169名

活動内容

熊野大花火大会の運営補助・特産品の販売・太鼓のイベントのお手伝い・地元高校での出前授業・農家のお手伝い

カウンターパート・協力

熊野市、熊野市観光協会、一般財団法人熊野市ふるさと振興公社、熊野商工会議所、NPO法人あそぼらいつ、糸川屋製菓株式会社、農家コミュニティサークル「農の風くまの」

成果・課題(担当職員から一言)

コロナ禍以降、花火大会の運営ボランティアのみの実施が続いており、地域の活性化に繋がるような取り組みが全く行えていませんでした。しかし、関係者の方々の協力もあり、地元企業や農家の方々と連携した新たな取り組みが来年度に実施できそうな状況となりました。(金子)



長野県飯山市活性化活動

日時

5月3日～5日、6月28日～29日、7月12日～13日、8月6日～12日、9月6日～7日、9月27日～28日、10月11日～13日、1月17日～18日、2月5日～9日

場所 長野県飯山市 **参加人数** 297名

活動内容

菜の花祭りの運営補助、孫の手ボランティア(住民の困りごとに対するお手伝い)、雪まつり・かまくら祭りの運営補助、大川地区にある古道の整備、住民との企画立案のワークショップ

カウンターパート・協力

飯山市、菜の花さかせるかい、大川有志の会、いいやま雪まつり実行委員会、かまくら祭り実行委員会

成果・課題(担当職員から一言)

年間を通じて小規模の活動を継続的に行えたことは成果として考えられる一方で、場当たり的な対応となっており計画的な目標と活動計画を設定できていないことが課題だと考えます。(金子)



静岡県西伊豆町活性化活動

日時

4月5日～6日、5月24日～25日、6月21日～22日、7月19日～21日、8月12日～15日、9月27日～28日、10月18日～19日、11月8日～9日、11月28日～30日、12月13日～14日、1月31日～2月1日、2月26日～3月2日

場所 静岡県西伊豆町 **参加人数** 286名

活動内容

耕作放棄地活用した野菜生産と商品開発、地域のお祭りのサポート、子ども食堂の実施等

カウンターパート・協力

西伊豆町、西伊豆町教育委員会、安良里自治会、はんばた市場、西伊豆健育会病院

成果・課題(担当職員から一言)

昨年に引き続きはんばた市場で開催した「クールタウンフェス」には455人の方々にご来場いただきました。また、コロツクだけでなくエビイモチップスなど新たな商品化の試作もしました。さらに、収穫体験や子ども食堂などを実施し、子どもたちの食育活動も充実させました。これまで行ってきた黄金崎での活動を終え、新たに網屋崎の保全と文化財(網小屋)の修復を目指すなかで、次年度以降さらなる協力者および資金調達が課題。(高井)



新潟県関川村活性化活動

日時

6月14日～15日、8月29日～9月1日、11月29日～30日、
2月6日～9日、2月14日～17日

場所 新潟県関川村 参加人数 223名

活動内容

地域の祭り運営補助、地域のお困りごとの手伝い、地元住民との交流会

カウンターパート・協力

関川村、大石山と川に親しむ会、タランベ倶楽部、関川村スポーツ協会

成果・課題(担当職員から一言)

地域住民との意見交換や未来会議の実施などを通じ、地域との連携強化と継続的な関係構築を進めました。(箭野)



宮城県山元町 東日本大震災復興支援活動

日時

6月20日～22日、8月22日～25日、10月31日～11月3日、
1月17日～19日、3月9日～13日

場所 宮城県山元町 参加人数 282名

活動内容

慰霊式典、竹灯籠点灯式、夏祭り運営補助、マルシェ運営補助、地域活動(道普請)、拠点整備、震災遺構等フィールドワーク、地域交流

カウンターパート・協力

山元町、山元町教育委員会、マチビト、テラセン、みんなの図書館、普門寺、浄正寺、土曜の会

成果・課題(担当職員から一言)

夏の活動では旧坂元中に宿泊拠点を置き、坂元地区での活動を中心に行いました。今後、山下地区、坂元地区と広く山元町全体に活動エリアを広げることで、復興と地域の活性化に寄与していきます。また、まちの活性化に向けた合同会社マチビトと、マルシェや商品開発といった地域経済の活性化に寄与する活動も展開していきます。



新潟県長岡市 長岡まつり活性化活動

日時 8月1日～4日

場所 新潟県長岡市 参加人数 101名

活動内容

勉強会(長岡JCによる平和学習、ネットワーク・フェニックスによる中越地震やフェニックス花火)。祭参加(神輿渡御、灯籠流し)、フィールドワーク(戦災資料館、中越地震の資料館、山本五十六記念館)、フェニックス花火の街頭募金、フェニックス観覧席の運営補助

カウンターパート・協力

特定非営利活動法人ネットワーク・フェニックス、一般社団法人長岡青年会議所、一般財団法人長岡花火財団

成果・課題(担当職員から一言)

コロナ再開後、初めての100人規模での活動になりました。一方、街頭募金の需要低下が課題です。(澤島)



新潟県長岡市 栃尾ふるさとづくり活動

日時

8月22日～25日、2月13日～15日

場所 新潟県長岡市栃尾地区 参加人数 55名

活動内容

とちお祭への参加(よさこい披露、全日本樽神輿綱引き選手権参加、大民謡流し、神輿渡御)、花火大会観覧、とちお同住会との交流会、裸押し合い祭の準備・運営補助

カウンターパート・協力

とちお同住会、一般社団法人栃尾観光協会、栃堀区

成果・課題(担当職員から一言)

コロナを経て活動再開後、2回目で地元住民との関係性が深まりました。(澤島)



岡山県備前市 日生諸島活性化活動

日時

6月14日～15日、7月12日～13日、8月7日～8日、9月5日～8日、10月11日～12日、1月31日～2月1日、2月20日～23日

場所 岡山県備前市日生町 参加人数 300人

活動内容

お祭りの運営補助(頭島あかりまつり、牡蠣まつり)、海岸清掃、交流会、漁師さんと活動、ワークショップ(子どもたち向け)

カウンターパート・協力

備前市、公益財団法人日本財団「海と日本PROJECT」、備前市里海里山ブランド推進協議会 with ICM、一般社団法人備前観光協会、一般社団法人みんなでびぜん、日生町漁業協同組合、頭島あかりまつり実行委員会、Adve Camp、森民宿、Villa SHINOBI、海松緑、アース製薬株式会社、イカリ消毒株式会社、株式会社ランドアート、オカモト株式会社

成果・課題(担当職員から一言)

里海の普及活動として、子どもたち延べ350名が参加するワークショップを実施、アマモ保全実施:実績3回(植付・回収・種まき)、「里海のかたり部」養成プログラムを完成させましたが、さらなる普及を実施する必要があります。(谷口)



加藤弘・関川村村長にインタビュー



IVUSAの関川村での活動は2004年に始まり、2025年度で22年目を迎えました。関川村の皆様にとってIVUSAの活動や学生の存在がどのように映っているのか、今後の期待と併せて加藤弘村長にお話を伺いました。

22年の歴史の重み

IVUSAの活動が始まった当時7,000人以上だった人口は現在約4,500人となり、特に若年層の減少が顕著です。集落でも「子どもの顔を見かけなくなった」という声が聞かれます。それだけに、IVUSAの学生が訪れてくれると「子どもが増えた」「孫が帰ってきたようだ」と村民の皆が喜んでます。

令和4年に高田地区で豪雨による浸水被害が発生した際には、学生のみならずOB・OGの皆様も救援活動に

駆けつけ、お見舞金まで寄付してくださいました。こうした行動も、IVUSAと関川村との長年にわたる繋がり、歴史の積み重ねがあったからこそだと深く感謝しております。



ますます必要になる学生之力

若者の減少に伴い、集落の行事や共同作業の維持が困難になりつつあります。雪下ろしや排雪、草刈り、江浚い（農業用水路や側溝の共同清掃作業）など、IVUSAの皆様のお力添えをいただきたいことは多岐にわたります。

一方で、学生の皆様にとっては関川村までの交通費が大きな負担となっていることでしょう。この点については、総務省が推進する「二地域居住の促進」政策の枠組みなどを活用し、村としてどのようなサポートが可能か検討を進めています。

ふるさと納税を通じたご縁

ふるさと納税は、故郷への恩返しや応援したい自治体を支援する制度ですが、関川村の最大の特産品（返礼品）はやはり「米」です。

メディアで話題の東京・大塚のおにぎり専門店「ぼんご」様では、関川村産の岩船産コシヒカリを100%使用されています。また、タレントのローラさんが無農薬の米作りに取り組まれている舞台も、実はこの関川村です。加えて、稲わらで編んだ猫用ハウス「ねこちぐら」も大変ご好評をいただいております。かつては数年待ちの状態でしたが、現在は比較的スムーズにお届けできるようになりました。

日々の食卓に欠かせないお米などを通じて、ぜひこれからも関川村を応援していただけますと幸いです。

生活困窮家庭の子どもへの 学習支援事業(京田辺市スタ サポ、泉大津市ミラサポ)

- 回数** スタサポ(102回)、ミラサポ(43回)
- 場所** スタサポ(京田辺オレンジルーム)、ミラサポ(泉大津市総合福祉センター)
- 参加人数** 大学生はスタサポ(延べ347人)、ミラサポ(延べ105人)、子どもはスタサポ13名、ミラサポ20名
- 活動内容** 学習支援事業
- カウンターパート・協力(委託元)** 京田辺市、泉大津市
- 成果・課題(担当職員から一言)**

京田辺市と泉大津市と強固なパートナーシップを築き、地域のニーズに応じた拠点で通年での学習支援を完遂できました。スタサポ(13名/週2回)、ミラサポ(20名/週1回)。(谷口)



児童養護施設の子どもの 交流キャンプ

- 日時** 9月12日～15日、3月6日～9日
- 場所** 新潟県長岡市
- 参加人数** 67名
- 活動内容** 子どもたちとの交流、ワークショップ
- カウンターパート・協力** 児童養護施設双葉寮、NPO法人市民協働ネットワーク長岡 笑顔いきいきファンド
- 成果・課題(担当職員から一言)** コロナを経て6年ぶりに再開することができました。(澤島)



才教学園 STEAM教育学習支援

- 日時** 11月28日～29日
- 場所** 長野県松本市才教学園
- 参加人数** 10名
- 活動内容** 松本市にある才教学園小中学校6年生向けの防災ワークショップ
- カウンターパート・協力** 学校法人才教学園
- 成果・課題(担当職員から一言)**

今年で4年目となり、7～9年生にも活動経験者があり、学園内でも定着した活動となっています。(宮崎)



宮城県山元町防災キャンプ

- 日時** 2月19日～22日
- 場所** 宮城県山元町
- 参加人数** 11名
- 活動内容** 小学生を対象にした宿泊型の防災イベント(簡易ベッド作り、ARを使った浸水体験など)
- カウンターパート・協力** 山元町、山元町教育委員会、テラセン
- 成果・課題(担当職員から一言)**

今年で3年目となり、経験者が中学生になってリーダーとして参加するなど定着してきました。プログラムの精度を高め、町にとっての恒例行事化を目指します。(宮崎)



コラム

イマドキの若者のメンタルヘルス事情

大学生のメンタルヘルス事情や大学生指導で気を付けるべきポイントなどについてIVUSAのOGで精神科医の伊東亜佐子さんにお話をお伺いしました。伊東さんは2026年度からIVUSAの理事も務めていただいています。



●精神科受診のハードルの低さ

現在、都心部ではメンタルクリニックが増え、精神科受診のハードルが下がり、多くの大学生が精神科や心療内科を受診するようになりました。「バイトが大変」「単位が取れない」といった大学生らしい悩みから、「自分が何をしたいのかわからない」といった、いわば遅れてきた思春期のような悩みまで、受診の理由はさまざまです。

私たちの学生時代には、先輩、友人、家族に相談していたようなことを、今ではChatGPTのような生成AIに相談したり、医療機関を受診したりする時代になりました。

冗談で「占いか、スナックか、精神科か」と言うことがあります。役割は全く違いますが、「話を聞いてほしい」「誰かと話して気持ちを整理したい」というニーズは共通していると考えます。最近では、コンビニのように気軽に受診できるメンタルクリニックも増え、精神科受診のハードルは以前より低くなりました。

●発達障害(ADHD・ASD)について

「ADHDかもしれない」「アスペっぽい」といった言葉を聞いたことがある人も多いでしょう。発達障害という概念は、この10～20年で急速に認知されるようになりました。

ADHD(注意欠如・多動症)は、不注意や衝動性、多動性を特徴とする発達特性です。忘れ物が多い、時間管理が苦手、衝動的に行動してしまうなどの困りごとがある一方、興味のあることには高い集中力を発揮することがあります。

ASD(自閉スペクトラム症)は、人とのコミュニケーションの取り方や、物事の捉え方に特徴があります。曖昧な指示が苦手だったり、予定変更がストレスになったりする一方、特定の分野に強い関心や能力を発揮することがあります。

大切なのは、「発達障害かどうか」という診断名ではなく、「自分の特性を理解し、どうすれば自分らしく生きやすくなるのか」を考えることです。医療の現場でも、薬だけでなく、自己理解や環境調整を重視しています。

●心の反応と、医療につなぐべき病気

IVUSAにも多くの学生が所属している以上、持ち込まれる相談もさまざまでしょう。恋人と別れれば悲しくて泣きますし、アルバイトで失敗したり、留年したりすれば、辛くて眠れなくなることもあります。それは「心の反応」として、ごく自然なことです。

医療の現場でも、そのような場合は、すぐに薬を使うのではなく、環境調整や心理的サポートを行うことが多くあります。IVUSAの人の悩み事も、話を聞き、環境を整え、支え合うことで改善するケースは少なくないと思います。

●統合失調症と双極性障害について

一方で、統合失調症と双極性障害は、「気持ちの問題」や「心の弱さ」ではなく、脳の機能の変化によって起こる病気であ

り、医療機関につなげることが重要です。

統合失調症は約100人に1人が罹患する病気で、大学生の年代に発症することも珍しくありません。「誰かに監視されている」「悪口を言われている」といった幻覚や妄想だけではなく、「急に人付き合いを避ける」「授業に来なくなる」「話がまとまらなくなる」といった変化が初期に現れることもあります。

双極性障害は、異常に活動的になり、睡眠時間が少なくても平気になったり、お金を使いすぎたりする「躁状態」と、気持ちが落ち込み、時には死にたくなるような「うつ状態」状態を繰り返す病気です。本人には病気の自覚がないことも多く、周囲の気づきが重要になります。

●IVUSAのコミュニティとしての価値

IVUSAで自然に行われている日常の雑談や悩み相談は、多くの学生にとって、医療機関を受診する前の重要な受け皿になっていると思います。支え合いだけでは解決できない問題もあります。しかし、「困っている人の話を聞く」「孤立させない」「必要なときには専門家につなげる」というコミュニティの役割は、精神医療の観点から見ても非常に大きな価値があります。

●大学生の皆さんへ

私が学生だった頃は、IVUSAの人はみんな個性的だったので、自分が特別変だとは思っていませんでした。社会に出て「IVUSAは本当に個性的で、面白い人たちが集まる団体だったんだ」と感じるようになりました。

私自身も、エネルギーが多く、多動傾向があることに学生時代から気づいていました。20代の頃は、自分の取扱説明書が分からず、たくさん失敗もし、周囲に迷惑をかけました。特性を理解し、自分に合った仕事や環境を選んだことで精神科医として働いています。

皆さんも、これから多くの壁にぶつかり、悩むことがあると思います。しかし、自分の特性を理解し、合った環境や仲間を見つければ、それは大きな強みになると思います。「自分はどのような環境で力を発揮できるのか」を知ることとはとても大切だと思います。

困っている人がいたら、ぜひサポートしてあげてください。そして、自分が困ったときには、一人で抱え込まず、周囲に助けを求めてください。精神医療の役割は、「病気を治療すること」だけではありません。その人が、その人らしく社会の中で生きていけるように支援することです。IVUSAというコミュニティもまた、その大切な役割を担っているのだと思います。



▲学生時代の活動(関川村)にて

災害救援

令和6年能登半島地震・豪雨 災害復旧・復興支援活動

日時

4月11日～13日、4月18日～4月20日、5月3日～6日、
7月25日～27日、9月19日～22日

場所 石川県珠洲市 参加人数 80名

活動内容

土砂や災害廃棄物の撤去、海岸清掃、復興イベントの運営補助など

カウンターパート・協力

珠洲市災害ボランティアセンター、NPO法人災害救援レスキューアシスト、珠洲市狼煙町・馬繰町

成果・課題(担当職員から一言)

震災を機に高齢化・過疎化が加速しましたが、地域の復旧・復興のために尽力されている地域住民の後押しになれるよう、微力ながら引き続き活動していきます。(深山)



令和7年静岡県牧之原市 竜巻災害救援活動

日時

9月16日～19日、9月20日～22日、9月26日～29日、10月10日～13日、
10月17日～19日、10月24日～26日、11月14日～16日

場所 静岡県牧之原市 参加人数 397名

活動内容

竜巻被害を受けたビニールハウスの解体・撤去作業、ビニールハウス骨組みの撤去とパイプ運搬、苗木の移動・搬出、茶畑・みかん畑内の飛来物(ガラス・瓦等)撤去、いちごハウスポットの搬出、田んぼ内の飛来物撤去、ボランティアセンターでのチラシ配布・ニーズ調査、被災地域のローラー作業(全戸個別訪問)と住民コミュニケーション

カウンターパート・協力

牧之原市災害ボランティアセンター、社会福祉法人牧之原市社会福祉協議会、公益財団法人車両競技公益資金記念財団、社会福祉法人中央共同募金会

成果・課題(担当職員から一言)

日帰り組も受け入れることで人数を確保でき、マンパワーを活した復旧作業が可能になりました。(澤島)



令和7年九州豪雨災害救援活動

日時

9月4日～8日、9月16日～20日、9月23日～28日、10月4日～5日、
10月11日～13日

場所 熊本県八代市 参加人数 116名

活動内容

家屋の土砂出し、家財出し、庭の土砂出し、障子張り替え、災害廃棄物運搬

カウンターパート・協力

公益財団法人車両競技公益資金記念財団、八代市災害ボランティアセンター、社会福祉法人八代市社会福祉協議会、コミサボひろしま、九州テクニカルネットワーク、災害NGO結、DRT広島、DRT長崎、秀岳館高等学校

成果・課題(担当職員から一言)

被災家屋の清掃・土砂撤去・家財搬出等を実施し、生活環境の復旧を支援しました。あわせて、住民の不安軽減と生活再建の促進に寄りました。(箭野)



沖縄県戦没者遺骨収集活動

日時 9月4日～9日、10月31日～11月3日、3月14日～19日

場所 沖縄県糸満市

参加人数 103名

活動内容 戦没者の遺骨収集、戦争資料館見学、慰霊式典

カウンターパート・協力

沖縄県平和祈念財団、平和祈念友の会、クラウドファンディング
29名の寄付者の方々

成果・課題(担当職員から一言)

戦没者御遺骨(見込み)7柱、遺留品2点。戦後80年が経過し、戦没者に近い御遺族も少なくなっている今、慰霊と戦争の記憶を繋いでいく最後の機会を大切に取り組んでいきます。(山崎)



厚生労働省主催 戦没者遺骨収集事業

日時

7月2日～17日、7月27日～8月12日、8月21日～9月3日、
9月11日～26日、2月24日～3月12日

場所 東京都小笠原村硫黄島、アメリカ領マリアナ諸島

参加人数 8名

活動内容 戦没者の遺骨収集、慰霊式典

カウンターパート・協力

一般社団法人日本戦没者遺骨収集推進協会

成果・課題(担当職員から一言)

5回8人派遣推薦、戦没者御遺骨(見込み)送還80柱。(山崎)



▲一般社団法人 日本戦没者遺骨収集推進協会のホームページ

世田谷区 市民活動支援コーナー運営

日時 通年

場所 東京都世田谷区キャロットタワー3階

運営人数 16名

活動内容 市民活動支援施設の管理運営

委託元 公益財団法人せたがや文化財団

成果・課題(担当職員から一言)

開館314日。1,901件。7,878人利用。こちらの施設は2026年3月末を以って閉館となり、19年半の管理運営受託を終了しました。長い間ご愛顧ありがとうございました。(山崎)



高齢者施設における バーチャル万博体験サポート

日時 4月～10月

場所 日本全国の高齢者施設

参加人数 80名

活動内容

高齢者施設での1970年の大阪万博の回想体験と2025年大阪・関西万博のバーチャル万博をサポート

委託元 MUIC Kansai

成果・課題(担当職員から一言)

高齢者の方にバーチャルで万博を体験してもらうというチャレンジな事業でした。55年前の万博の思い出を楽しそうに話してくださるのが印象的でした。(伊藤)



協賛企業一覧

IVUSAは学生が主体で運営していますが、行政や企業の方々をはじめとする様々な方々の支えがあって活動が成り立っています。

IVUSAではこのようなご支援いただいている方々を「コントリビューションパートナーズ」と呼ばせていただいております。

◆活動全体

- ・イカリ消毒株式会社
- ・株式会社ランドアート
- ・東和製薬株式会社
- ・アース製薬株式会社
- ・オカモト株式会社
- ・株式会社PR TIMES
- ・株式会社オンザウェイ

◆長崎県対馬市海岸清掃活動

- ・モリトジャパン株式会社
- ・株式会社ダンロップホームプロダクツ
- ・モリトアパレル株式会社
- ・富士手袋工業株式会社
- ・ネックウォーマー
- ・株式会社montbell

◆千葉県印旛沼クリーン作戦

- ・株式会社サンライフ

◆琵琶湖外来水生植物除去活動

- ・希望食品株式会社
- ・日軽パネルシステム株式会社

◆海外での活動(フィリピン・カンボジア)

- ・株式会社ビジョン

◆法人会員

- ・三菱マテリアル株式会社
- ・株式会社三四郎
- ・日軽パネルシステム株式会社
- ・カナダ株式会社
- ・一般社団法人日本イベント協会
- ・株式会社サンライフ
- ・西菱電機株式会社

メディア掲載一覧

No	活動名	掲載メディア	掲載日
1	長野県伊那谷環境保全活動	信濃毎日新聞	2025年5月4日
		中日新聞	2025年5月5日
		南信州新聞	2025年5月6日
		南信州新聞	2025年11月20日
2	宮城県山元町東日本大震災復興支援活動	関西学院大学新聞	2025年5月17日
3	遺骨収集活動	産経新聞	2025年6月5日
4	三重県熊野市活性化活動	中日新聞	2025年8月16日
5	千葉県印旛沼クリーン作戦	千葉テレビ	2025年8月19日
		毎日新聞	2025年8月20日
		千葉日報	2025年8月21日
6	京都府阿蘇海環境づくり活動	京都新聞	2025年8月30日
7	千葉県九十九里全域清掃大作戦	産経新聞	2025年9月3日
8	琵琶湖外来水生植物除去大作戦 2025	ABC ニュース	2025年9月12日
		読売テレビ	2025年9月12日
		びわ湖放送	2025年9月12日
9	新潟県佐渡市海岸清掃活動	新潟日報	2025年9月17日
10	長崎県対馬市海岸清掃活動	西日本新聞 長崎県版	2026年2月19日
		読売新聞	2026年2月19日
11	新潟県関川村おいしどもんこまつり活性化活動	サンデーいわふね	2026年3月1日
12	沖縄県石垣島海洋漂着ゴミ水際掃討大作戦	八重山日報	2026年3月2日
13	山形県日本海沿岸清掃	荘内日報	2026年3月15日



①2025年5月4日付
「信濃毎日新聞」



①2025年5月5日付
「中日新聞」



①2025年5月6日付
「南信州新聞」



①2025年11月20日付
「南信州新聞」



②2025年5月17日付
「関西学院大学新聞」



③2025年6月5日付
「産経新聞」



④2025年8月16日付
「中日新聞」



⑤2025年8月19日付
「千葉テレビ」



⑤2025年8月20日付
「毎日新聞」



⑤2025年8月21日付
「千葉日報」



⑥2025年8月30日付
「京都新聞」



⑦2025年9月3日付
「産経新聞」



⑧2025年9月12日付
「ABCニュース」



⑧2025年9月12日付
「読売テレビ」



⑧2025年9月12日付
「びわ湖放送」



⑨2025年9月17日付
「新潟日報」



⑩2026年2月19日付
「西日本新聞 長崎県版」



⑩2026年2月19日付
「読売新聞」



⑪2026年3月1日付
「サンデーいわね」



⑫2026年3月2日付
「八重山日報」



⑬2026年3月15日付
「荘内日報」

収支報告

書式第13号（法第28条関係）

事業報告用

令和7年度 活動計算書（その他事業がない場合）

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会

（単位：円）

科	目	金額	小計・合計
【A】経常収益			
1 受取会費			34,982,158
	受取入会金	6,945,000	
	学生会員受取会費	26,587,158	
	賛助会員受取会費	40,000	
	OB・OG会員受取会費	90,000	
	法人会員受取会費	1,320,000	
2 受取寄附金			2,060,706
	受取寄附金（一般）	1,821,162	
	受取寄附金（募金）	239,544	
3 受取助成金等			35,633,034
	受取補助金（世田谷区市民活動支援コーナー）	12,405,580	
	受取補助金（教育支援事業）	2,908,694	
	受取助成金	20,318,760	
4 事業収益			102,508,781
	国内及び国外における、国際協力活動、環境保護活動、地域活性化活動、災害救援活動、子どもの教育支援活動等の社会貢献事業収益		
	参加費収入	100,817,496	
	業務委託料（バーチャル万博）	1,651,285	
	広告料	40,000	
5 その他の収益			153,328
	受取利息	121,318	
	雑収入	32,010	
経常収益計			175,338,007
【B】経常費用			
1 事業費			
	（1）人件費		55,469,929
	給料手当	45,812,506	
	役員報酬	2,965,000	
	法定福利費	6,461,397	
	謝金	220,466	
	福利厚生費	10,560	
	（2）その他経費		96,905,034
	期首商品棚卸高	2,843,298	
	期末商品棚卸高	-2,657,474	
	旅費交通費	12,043,707	
	車両費	13,912,221	
	外注費（業務委託費、バス等）	23,614,496	
	食費・消耗品費	21,397,896	
	通信・郵送費	248,053	
	会場費	1,821,946	
	宿泊費	14,178,939	
	支払手数料	13,500	
	クラブ支援金	741,200	
	グッズ製作費	6,069,032	
	カンボジア学校建設費	900,000	
	ボランティア保険・行事保険費	1,768,400	
	その他（ミャンマー地震への募金、関川マラソン協賛費など）	9,820	
事業費計			152,374,963
2 管理費			
	（1）人件費		2,910,390
	役員報酬		
	給料手当	2,456,540	
	法定福利費	453,850	
	福利厚生費		
	（2）その他経費		21,579,356
	事務所賃借費	8,856,500	
	旅費交通費	1,391,718	
	車両費	382,271	
	通信費	89,483	
	消耗品費	601,538	
	諸会費	246,000	
	租税公課	4,611,876	
	支払手数料	262,232	
	荷造り運搬費	157,220	
	会議費	238,052	
	慶弔費	88,200	
	水道光熱費	828,978	
	図書情報費	29,635	
	業務委託費	2,374,352	
	リース費	147,563	
	ネット関連費	1,210,249	
	ごみ処理費	63,489	
管理費計			24,489,746
経常費用計			176,864,709
当期経常増減額【A】－【B】・・・①			-1,526,702
【C】経常外収益			
	固定資産売却益		
	過年度損益修正益		
経常外収益計			0
【D】経常外費用			
	為替差損	82,477	
	災害損失		
	過年度損益修正損		
経常外費用計			82,477
当期経常外増減額【C】－【D】・・・②			-82,477
税引前当期正味財産増減額①+②・・・③			-1,609,179
	法人税、住民税及び事業税・・・④		150,000
	前期繰越正味財産額・・・⑤		56,190,051
次期繰越正味財産額③－④+⑤			54,430,872

学生代表

総合企画室

会議セクション

本部企画セクション

緊急時対応セクション

事務局管轄

- ・学生サポートセンター
- ・情報センター
- ・広報部
- ・ファンドレイジング部
- ・新規事業開発部

運営本部

新歓サポートセクション

クラブサポート運営セクション

実務研修セクション

サテライトクラブ運営セクション

プロジェクトサポート本部

プロジェクト運営管理セクション

事業推進セクション

研修セクション

プロジェクト人材管理セクション

【学生代表】

松井 登夢(龍谷大学4年)

【総合企画室】

松井 登夢(龍谷大学4年)
北谷 ひなた(大和大学4年)

【運営本部】

田中 偉郷(近畿大学4年)
金森 大鷹(東北公益文科大学4年)
徳力 煌陽(立命館大学3年)

【プロジェクトサポート部】

宗藤 光希(国土館大学4年)
大久保 樹(立命館大学4年)

●クラブ一覧

東京世田谷クラブ
東京砧クラブ
東京駒沢クラブ
東京市ヶ谷クラブ
東京三崎町クラブ
東京白山クラブ
東京板橋クラブ

東京小日向クラブ
東京多摩クラブ
東京八王子クラブ
東京日野クラブ
神奈川白楽クラブ
群馬高崎クラブ
山形酒田クラブ

京都衣笠クラブ
京都今出川クラブ
京都上賀茂クラブ
京都西院クラブ
京都京田辺クラブ
京都深草クラブ
大阪吹田クラブ

大阪茨木クラブ
大阪東大阪クラブ
兵庫西宮クラブ
滋賀草津クラブ
滋賀瀬田クラブ
長崎佐世保クラブ



中国語



韓国語



クラスレッスン

2名～6名の少人数制ですので、きめ細かい授業が行えます。



プライベートレッスン

一対一でじっくりと「わかる」「使える」実践的なスキルを身につけます。



企業派遣

ご要望を調査し、目標に向けたオリジナルカリキュラムを作成。



表参道から徒歩5分

学校や会社のあとにも通える便利な立地です。



青山国際教育学院

TEL : 03-3403-1901

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-40 青山センタービル3F





熱意は人を動かし、社会を動かす[®]

<https://www.ivusa.com/>

2026年 7月

発行・編集：特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 1-34-4 ザ・アゼリアハウス B-102

Tel/Fax 03-6751-2683 E-mail office@ivusa.net